



爽やかあいさつ 黙々そうじ 周りに感謝と思いやり

南小の子供たちに、コミュニケーションの基礎を気持ちよく身に付けてほしい、心静かに自分と向き合う時間を持ってほしい、自分や他者の存在のすばらしさを感じてそれを表してほしいと願って、〇爽やかあいさつ 〇黙々そうじ 〇周りに感謝と思いやり を、運営の重点に掲げてきました。爽やかな会釈やあいさつの質が上がってきたと感じています。また、6年生のリーダーのおかげで、物音はしても話し声が聞こえない静寂なそうじの時間になってきています。

5年観音山、6年修学旅行

10月19～20日に、5年生は宿泊体験研修（一泊二日・観音山少年自然の家）を実施しました。また、11月10～11日には、6年生の修学旅行（一泊二日・静岡市内等）を実施しました。

本年度はこういった外に出ていく行事については、新型コロナウイルスの広がり具合を見つつ、中止も視野に入れながら慎重に検討してきました。学校を離れての貴重な学びとして、また、子供たちの思い出として、実施できたこともとてもよかったと思っています。

周りに感謝と思いやり

学習指導要領では、修学旅行や宿泊体験学習等を「遠足・集団宿泊的行事」としています。その内容として、「平素と異なる生活環境にあつて、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活のあり方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにする」ことが示されています。学習指導要領に基づいて、修学旅行等を行うことは当然ですが、南小の子供たちには特に、修学旅行と宿泊体験学習を通して、「周りに感謝と思いやり」について考えを深めてほしいと願い、出発式では、活動を通して感謝と思いやりのある行動をしてほしい旨の話をしました。

5年生の観音山での活動は、雨に降られたため、山頂登山や沢登りが過酷となりましたが、その分、「がんばって」といった励ましの言葉や、「待っているから」「気をつけて」といった友を気遣う言葉が多く聞かれました。

6年生の修学旅行では、場所をわきまえた行動、相手や周りの人に配慮した言動が随所に見られました。帰校式では、「周りに感謝と思いやりの行動を探すつもりでいたけれどやめました。」と話をしました。探さなくてももいたるところで見られたからです。

5年生は活動を通して、家族や友人に対する感謝と思いやりを学びました。6年生は、家族や友人に加えて、公共という「周り」への感謝と思いやりについて学びを深めました。このような経験はこれからの人生を豊かにしてくれると思います。

(校長 上野 明彦)

